

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

※野外施設の情報は、ホームページでも紹介しています。

野外施設自然情報

自然環境保全センター 生き物

検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を掲載しています。

<気になる生き物>

リスの生活

12号(2018年3月発行)でリスの器用なクルミの食べ方を紹介しましたが、その後もリスは野外施設周辺を元気いっぱい飛び回っています。

竹見本園の近くでは、ヒノキの枝に越冬に使った巣が見つかりました。木のうろを使うこともありますが、主に木の枝のまたに作るそうです。鳥の巣のような球形で、中にはスギの皮を大量に入れます。ふわふわして暖かそうですね。

春になるとサクラの花や実を食べる姿がみられました。黒く熟したサクラランボならまだわかりますが、食べていたのはまだとても小さくて青い実。…それ、おいしいの？



サクラの実を食べるニホンリスと
地面に落ちていた巣材



ハルニレ丸坊主事件

モウソウチク林の隅にある1本のハルニレ。毎年葉が食べられてしまいます。今年も気が付いた時にはほぼ丸坊主。その犯人は黒々とした小さな幼虫でした。おしりをあげた不思議なポーズでびっしり並び、パラパラと糞が落ちる音まで聞こえました。ハバチの仲間のハルニレハバチの幼虫と思われます。ハバチにはたくさんの種類があり、幼虫が食べる植物の種類も異なりますが、旺盛な食欲で1本の木の葉を食べつくしてしまいます。木にとってはやっかいですが、ときおりメジロが捕食していたので、子育て中の鳥にとっては便利な餌場なのかもしれません。

ちなみに、幼虫を捕獲しましたが、残念ながらうまく育たず成虫は見られませんでした。



幼虫を食べるメジロ



葉に並ぶ幼虫と
葉を食べられた枝
(6月13日撮影)

<最近の話題>

不思議な声の正体は？

6月12日から24日の間、アカショウビンの声が野外施設周辺に響き渡りました。カワセミの仲間の夏鳥で、「ヒョロロロロ…」と下降する独特な鳴き声は、南の国を連想させます。サワガニやカエルなどを食べ、溪流のある暗い林を好みます。野外施設や七沢周辺は絶好の場所です。これまでも数日鳴き声が聞こえる年がありましたが、これほど長い期間とどまっていたのは珍しいです。一目その姿を見たいと思いましたが、なかなか姿を見せてくれませんでした。ラッキーな目撃者は何人いたのでしょうか？



センサーカメラが見た野生動物のくらし

自然観察園内にセンサーカメラを設置してほぼ1年が経ちます。撮影された生き物の種類は全部で32種類になりました。シカやイノシシの親子連れ、じゃれあうタヌキ、草を食べるノウサギ、餌を探す鳥たちなど、さまざまな動物たちの営みを記録しました。

動画や写真は本館展示室で見られます。「こんなにたくさんの動物がいるんだ！」と驚く方も多く、好評です。ぜひじっくりとご覧ください！観察も継続していきます。

センサーカメラで撮影した野生動物の撮影頻度

カメラ設置期間：2017年7月28日～2018年6月3日(カメラは3か所設置)

哺乳類	撮影頻度	鳥類	撮影頻度
ニホンジカ	362	ガビチョウ(外来種)	97
タヌキ	211	コジュケイ(外来種)	28
イノシシ	120	アオジ	16
ノウサギ	117	クロツグミ	14
ハクビシン(外来種)	67	シロハラ	12
アナグマ	26	ソウシチョウ(外来種)	4
テン	6	キジバト、ハシブトガラス	3
ネコ(ペット)	4	シメ、トラツグミ、ヒヨドリ、フクロウ、ヤマシギ	2
アライグマ(外来種)	3	イカル、ウグイス、キビタキ、クロジ、ハシボソガラス、ビンズイ、ヤマガラ	1
イタチ、ネズミ、ニホンザル	1		
その他	撮影頻度		
アズマヒキガエル	1		



運がよければ、
昼間も会えるかも！？



アナグマ(6月3日9時撮影、M21付近)

生き物発見！

園内で見られた昆虫の情報提供をいただきました。職員だけでは気が付かないことがたくさんあります。これからも皆様からの情報をお待ちしています。



↑ハクウンボクの幹に産卵中の
タマムシ
ーツノトシボのオス



↑クロタマムシ
頭部の赤い模様はオスの特徴。
高いマツの枝にとまります。



写真提供：山田航
(8月4日撮影)

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報は、ホームページで見られます

神奈川県 自然保護課 野生動物救護 検索

自然環境保全センター(旧自然保護センター)では傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた、傷ついたり弱ったりした県内の野生動物(鳥類と哺乳類の一部)を收容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載していきます。

<平成30年4月～6月の受け入れ実績報告>

受付件数の多かった上位種		主な救護原因			
		<鳥類>	<哺乳類>		
1位	スズメ 33 件	ガラス窓などへの衝突	25 件	疥癬症(かいせんしょう)	6 件
2位	ツバメ 29 件	ネコなどに襲われる	19 件	交通事故	1 件
3位	キジバト 14 件	営巣木の伐採など	18 件		
3位	ムクドリ 14 件	ネズミ捕りなどの粘着剤と油汚染	4 件		
4位	タヌキ 8 件	交通事故	4 件		
5位	モズ 7 件	釣り糸(針)や防鳥ネットなどに絡む	3 件		

<受け入れ情報 -油まみれのムクドリのヒナ->



からだを温めると少し元気ができたので洗浄しました。油を落としたら、よく乾かして、脱水を起こさないように水分補給もこまめに行いました。



機械油の中に落ちてしまったムクドリのヒナを受け入れました。油で体温をうばわれ冷たくなっています。とても危険な状態でした。



夕方にはエサを食べるまでに回復しました。しかし翌朝、残念ながら亡くなってしまいました。油を飲み込むと中毒を起こす場合があります。今回の記録を、今後のケアの改善に役立てたいと思います。

私たちにできることは？

油の入った容器にはフタをする。

油を野外に放置したり、流したりしない。

他にもできることがあるか、考えてみましょう。

※ 油の種類によっては毒性があるものもあります。素手で触らずに、保護する前に電話で救護施設にご相談下さい。

種名: ムクドリ

学名: *Spodiopsar cineraceus*

分類: ムクドリ科

漢字名: 椋鳥など

名前の由来: ムクノキの実を好んで食べることが由来と言われていますが、諸説あるようです。

全長: 約24cm 体重: 約74~102g

県内では、市街地や公園、畑、人家、駅前の街路樹などで年中みることができます。ミズや昆虫、木の実などを食べます。ヒナの頃から木の実をまる飲みして消化できない固いタネは口からポーンと吐き出すことができます。大群でうるさいなど嫌われ者ですが、植物のタネを運ぶ鳥(種子散布者)としての大切な役割をしています。(右上の写真は、受け入れたムクドリのヒナが実際に吐き出したハナミズキのタネです。)



ムクドリの成鳥



約1cm

救護どうぶつの特設公開

保全センター内の寒桜やツバキなどが咲く中、2018年3月25日の日曜日、普段は非公開施設である傷病鳥獣救護施設の一部を開放しました。



実物の見学の他、パネルや標本の展示で分かりやすく



2017年10月の台風21号で保護された鳥たちの紹介をしました。スライドショーでリハビリの光景なども紹介。翼標本も展示されました。



ここでは、県民のみならずご協力により持ち込まれた傷ついた野生動物を保護し、野生復帰を目指す取り組みを昭和53年から行っています。現在、保護される動物は年約約500~600件のほり、野生動物救護ボランティアの方々のご協力のもと、日々治療やリハビリなどを行っています。

主な救護原因

交通事故



野生動物は私たちの身近なところにいます。交通事故は毎年多いです。

釣糸・釣針



エサと目についたら飲み込んだり、喉に絡まってケガをしています。

伝染病・寄生虫症



カインズにカケのものを触ったタヌキ、人間にも感染するもので非常に近づかないでください。

窓ガラスへの衝突



風雨の当たったガラスは暑さによって見えにくい。思わぬ衝突の原因となることがあります。

わな



トラバサミやトリモチなどの違法な罠によってケガをする動物が多いです。

誤認保護



鳥類にケガやこどもはうきうき鳥人など、思わぬケガの原因となることがあります。ケガをしていない場合は遠くから見守りましょう。



これまでの活動の中で蓄積してきた主な救護原因をわかりやすくまとめたパネルも展示しました。

人間との関わりあいの中で野生動物たちが傷ついていることがよくわかります。

楽しいオリジナルクイズやケージの前で説明を聞いたり



クイズ回答のために展示を丁寧に読んで、答えを探して何周もされる方もおられました。



神奈川県内で保護されたけれど野生に戻れない鳥類たちやリハビリ中の状況について、やさしく説明。

子供たちは、そんな鳥たちの現実を目の前にして真剣に聞いてくれました。

自分の目で見て耳で聞いて、心に留めてくれたでしょうか。



野生動物救護ボランティアの皆さん。事前準備やイラスト、データ収集など様々にお手伝いいただきました。

展示物は、ボランティアさんご協力のすてきなイラストで作られています。

30年度 特別公開のお知らせ

- 第1回 2018年10月21日(日) 13:30~15:30
- 第2回 2019年 3月24日(日) 13:30~15:30

申込不要・参加費無料・雨天決行 ※但し、感染症の発生や悪天候により中止する場合があります。